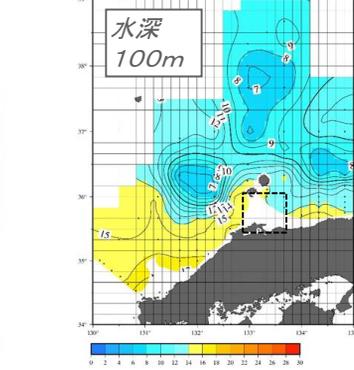
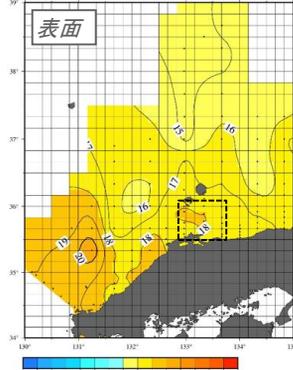
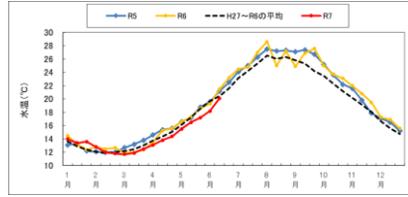


発行 鳥取県水産試験場 (電話:0859-45-4500)  
試験船による海洋観測結果 (6月上旬)



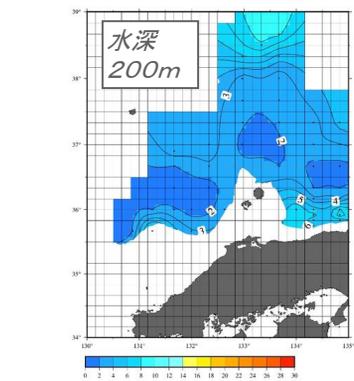
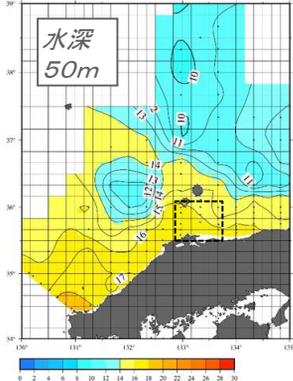
## 鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽  
(電話:0858-34-3321)  
6月中旬 20.1℃  
平年より 0.1℃高め



隠岐海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の平均水温は 17.6℃ を示しています。  
【前年差: -0.9℃、平年(直近30年)差: -1.5℃】

平均水温は 13.7℃ を示しています。  
【前年差: +0.5℃、平年(直近30年)差: -1.3℃】



平均水温は 16.0℃ を示しています。  
【前年差: -1.1℃、平年(直近30年)差: -0.9℃】

水深200mの水温は平年並みでした。

### 水産試験場

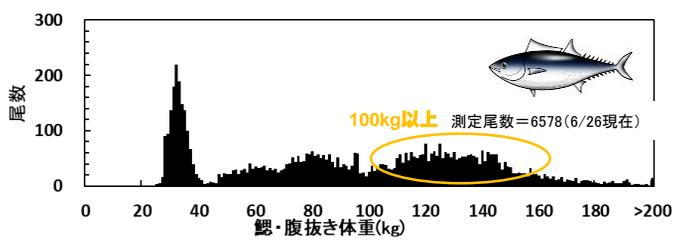
## 境漁港クロマグロ水揚げ 今季も大型サイズ好調!



5月14日の初水揚げ

○太平洋クロマグロ資源の急激な回復を受け、中西部太平洋まぐろ類委員会は令和6年12月の年次会合で大型魚(30kg以上)の50%増枠を決定。このため今季の日本海側の大中小型まき網漁業の漁獲枠は昨年より約200トン増枠の2,084トンとなり、12船団が出漁しました。  
○今季の漁開始日が最も早い5月1日に設定されたこともあり、初水揚げは過去(昭和57年以降)最も早くなり、以降各船団とも順調に漁獲枠を消化し、今漁期も終盤を迎えています(6/25時点の総水揚げ量925トン)。

○今季は漁期前半から大型サイズ(100kg以上)が多く水揚げされ、徐々に中型(60~80kg前後)や小型サイズ(30kg前後)も好調となり、各年級群(ある年に生まれた魚の集団)は順調に生き残り、成長していると考えられます。  
○近年境漁港では、資源の回復に伴い100kg以上(推定7歳以上)の大型サイズの水揚げが増える傾向にあり、今季も多く水揚げされました(下図参照)。



令和7年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

## 西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 千750-1136  
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424  
境港営業所 鳥取県境港市栄町92番地1 千684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

## 6月上旬の水塊配置と対馬暖流

鳥根沖冷水域	鳥根県沖のN35°50'以北に冷水域が認められました。
隠岐諸島北方の冷水域	隠岐諸島北方N36°35'以北に冷水域が認められました。
山陰・若狭沖冷水域	兵庫県沖N36°15'以北に冷水域が認められ、接岸傾向にあります。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かい、支流は冷水域に沿って流れると考えられます。

### 水産振興課・漁業調整課

## ◆ぶりのTAC(漁獲可能量)管理が始まります◆

鳥取県の沿岸漁業の主力魚種であるぶり(はまち、まるご)は、令和7管理年度(令和7年7月～令和8年6月)から TAC 魚種に指定されることとなりました。TACとは、1年間に漁獲できる総量の上限を定めることで、水産資源の維持・管理を行うものです。ぶりのTAC管理は、ステップアップ方式により段階的に実施され、令和7管理年度はステップ1として、漁獲報告の義務化等が実施されます。なお、ステップ1では国がTAC数量を一括管理することから、配分は全体数量である101,000トンの内数として示されています。  
(漁業調整課資源管理担当)

### 鳥取県で漁獲対象となるTAC魚種(特定水産資源)

クロマグロ、マアジ、マサバ及びゴマサバ、マイワシ、スワイガニ、スルメイカ  
【ステップアップ管理対象】カタクチイワシ、ウルメイワシ、マダイ、ブリ



## ◆夏場に向けてのご注意◆

＜盗難防止＞ 漁具や漁業用機器、小型船の燃料等の盗難に注意しましょう。  
＜熱中症対策＞ 日頃から体調管理を徹底し、漁労作業では定期的な休息、水分と塩分補給を心がけましょう。

## 栽培漁業センター

### キジハタ種苗放流

当センターではキジハタの標識放流を行い、市場調査を通して放流効果を検証しています。キジハタ(あかみず)はハタの仲間中華やかな見た目と甘みをもつ白身の高級魚として知られています。県内では平成28年度から毎年放流が行われていますが、近年の水揚げは6トン台で横ばい状態です。  
6月に入り、鳥取港、赤碕港では1日30尾程度が活魚で水揚げされており、体長40cm前後を主体に55cm(2kg超)の大型個体も見られています。6月以降、水温が平年並みに上昇し、キジハタの活性が上がってきたためと考えられます。今後は市場調査のデータを基に年齢構成・放流魚の再捕率を算出し、適度な放流尾数を検討する予定です。

## 潮に夢を 共和水産株式会社

代表取締役 橋津 寛  
〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地  
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530